

多摩田園都市エリアにおける生活者起点での新たな郊外まちづくり「nexus(ネクサス)構想」を始動

～2022年4月、生活者起点での実証実験に取り組む「nexusチャレンジパーク」を開業予定～

東急株式会社

当社は、多摩田園都市エリアにおいて、生活者起点で取り組む新たなまちづくり「nexus構想」(以下、本構想)を始動します。「nexus(ネクサス)」とは、つながり・連鎖を意味します。本構想では多摩田園都市エリアで、郊外における生活者起点での自由で豊かな暮らしを実現するために、住む・学ぶ・働く・遊ぶといった生活が自然や農と融合した「歩きたくなるまち(Walkable Neighborhood)」を目指します。

東急グループの源流となる田園都市株式会社の1918年の創立以来、当社は時代と共に地域に根差したまちづくりを行っており、近年では2012年に横浜市と「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定を締結、2015年に川崎市と「東急沿線まちづくり」に関する包括連携協定を締結するなど、行政や地域との関係性を構築してきました。昨今の世の中の変化は、人々の生活スタイルを変え、郊外滞在時間の増加や自然への期待などが高まりを見せており、本構想では、緑豊かな「田園」と職住近接型の「都市」の共存を多摩田園都市エリアで目指すべき姿と捉え、当社が築いてきた行政や地域との関係性を生かした活動を展開します。

本構想の推進にあたっては、当社単独で取り組むのではなく、本構想に共感いただいた行政や企業をバディ(仲間)と捉え、多様なバディと連携し、生活者起点の持続可能な地域ネットワークを構築します。なお、当社は株式会社シグマクス・ホールディングスと、本構想を推進するために2022年1月18日付で基本協定書を締結し、両者で多様なバディとの連携促進および実証実験や事業化を進め、本構想実現に向けた活動を共同して推進します。

本構想の第1弾として、川崎市、横浜市の市境近辺にある虹ヶ丘団地、すすき野団地エリアに、バディと共にさまざまな実証実験に取り組む拠点として「nexusチャレンジパーク」を2022年4月に開業する予定です。緑豊かな約8,000㎡の敷地内に、プランテオ株式会社が手掛けるシェアリング型のコミュニティIoT農園や地産地消マルシェなどの多目的利用が可能な空間を作り、地域住民が日常的に自由に活用できる場としても運営します。住民に加え、地域の農家や学校、そして企業や行政などのバディが集まって繋がり、生活者起点での魅力的なまちの仕掛けづくりに挑戦します。

また、今後は「nexusチャレンジパーク」だけでなく、多摩田園都市エリア内の複数にわたる対象地域においても、各対象地域の特徴を生かし、「農と食」「資源循環」「エネルギー」「駅遠エリアのMaaS」といったサステナブルテーマを定め、実証実験や事業化を進め、段階的に展開していきます。

当社は本年9月に創立100周年を迎えますが、本構想を多摩田園都市エリアにおける次の100年に向けたパイロットプロジェクトと位置づけ、生活者起点の持続可能な地域ネットワークを構築することで、社会的価値を創出する「東急ならではのまちづくり」を推進していきます。



▲nexus構想イメージ



▲「nexusチャレンジパーク」全景イメージ

詳細は別紙の通りです。

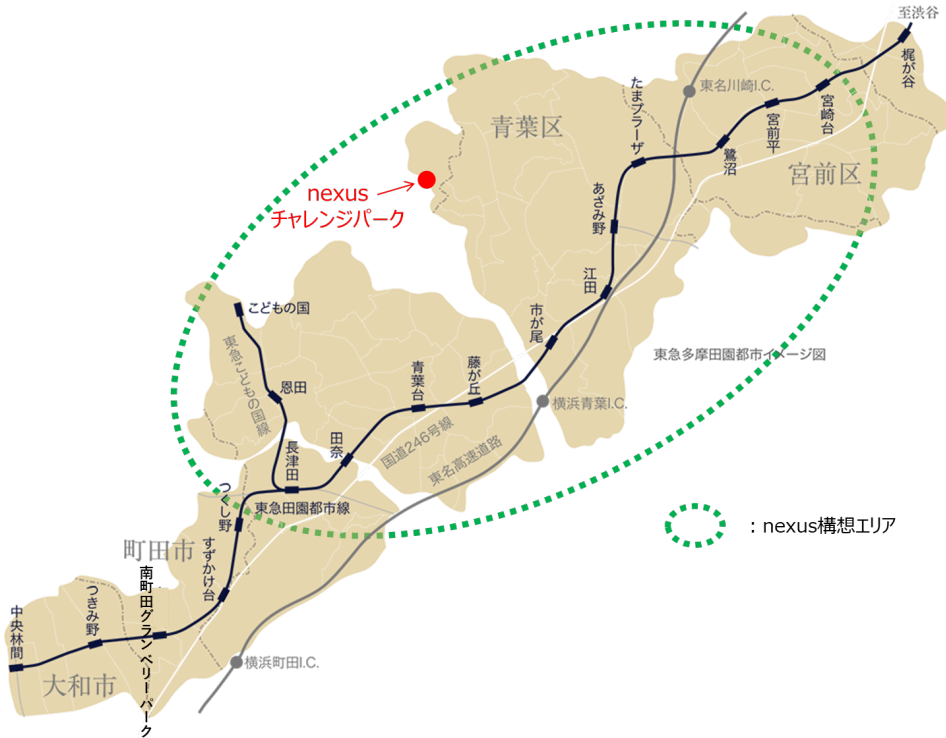
以上

【別紙】

1. 「nexus構想」概要

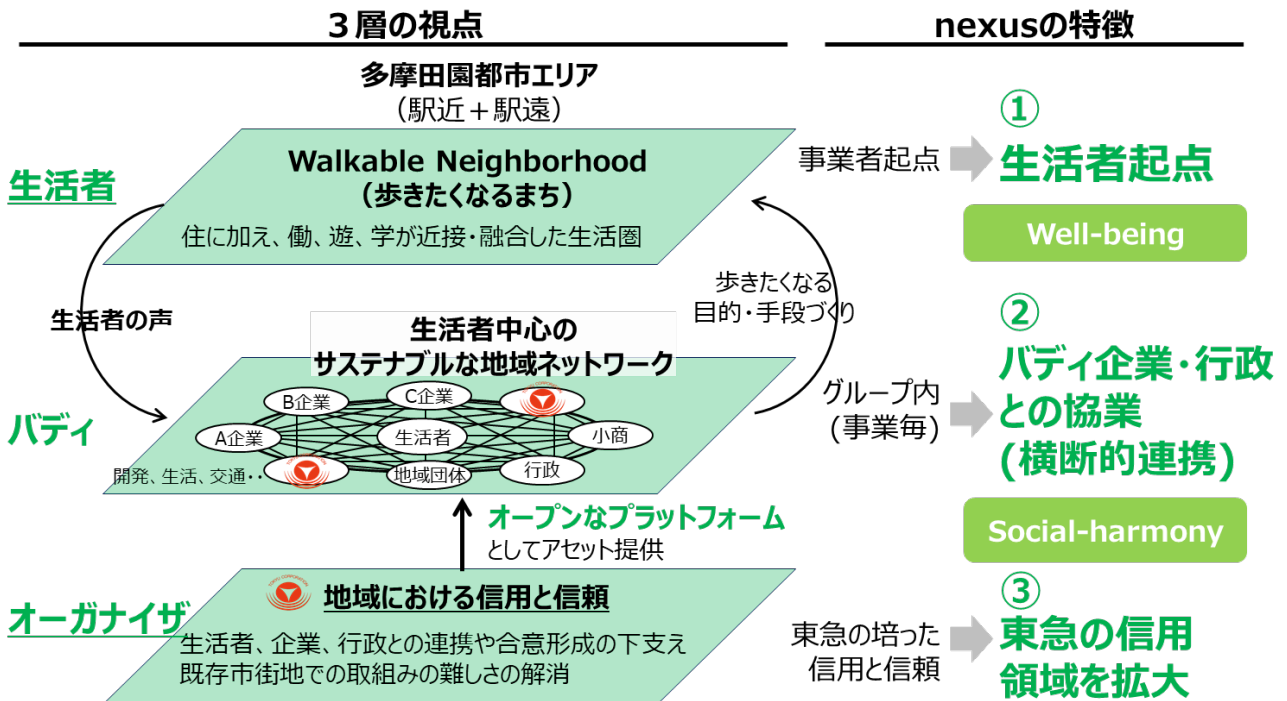
(1)対象エリア

当社が過去に区画整理をした多摩田園都市(田園都市線梶が谷駅～中央林間駅)エリアのうち、横浜市青葉区・川崎市宮前区周辺からnexus構想を開始します。



(2)nexus構想の特徴(サステナブルな地域ネットワーク)

多様化する生活者の声を起点に、生活者一人ひとりにとって魅力的な「歩きたくなるまち」の実現を目指します。実現に向けては、東急グループだけではなく行政や多様な企業(バディ)と連携し、生活者起点でのサステナブルな地域ネットワークを構築します。バディを支える役割がオーガナイザーとしての東急です。これまで培った地域における信用と信頼を生かす領域を、これからはバディへも積極的に広げていきます。



2. 「nexusチャレンジパーク」概要

- 所在地: 神奈川県川崎市麻生区早野1150-2
- 敷地面積: 7,822.00㎡
- 開業: 2022年4月(予定)
- デザイン監修: 合同会社HOC(濱久貴、渡部将吾)
- 施工: 桃山建設株式会社
- 用途: コミュニティ農園、イベントスペース、駐車場
- ホームページ: <https://ncp-hayano.studio.site>



▲「nexusチャレンジパーク」俯瞰図



▲「nexusチャレンジパーク」位置図



▲シェアリング型コミュニティIoT農園イメージ

3. 株式会社シグマキス・ホールディングス 概要

シグマキス・グループは「コンサルティング」と「投資」を事業の軸として、グループ各社が有するネットワーク力を生かして、様々な産業および企業の価値創造、社会課題を解決する新たな市場や事業の創出を行っています。コンサルティング事業は、事業戦略立案、業務変革、デジタルテクノロジー、クラウドソリューション、プロジェクトマネジメント、新規事業開発およびイノベーション創発のプロフェッショナルを揃え、多様なプロジェクトを通じて価値創造を推進しています。投資事業は、高度なデジタル技術の活用や、「まちづくり」「食・健康」など、複数の産業をつなぐ領域の投資案件を中心に手掛け、コンサルティング事業との連携で投資先企業の成長および企業価値向上を支援します。

- ・設立: 2008年5月9日
- ・所在地: 東京都港区虎ノ門4-1-28
虎ノ門タワーズオフィス9階
- ・代表者: 代表取締役社長 富村 隆一
- ・事業内容: コンサルティング、投資
- ・ホームページ: <https://www.sigmaxyz.com/>



4. プランティオ株式会社 概要

持続可能な食と農をアグリテインメントな世界へ、をVISIONに掲げ、IoTセンサーとスマートフォンアプリを組み合わせた野菜栽培のナビゲーションシステム「grow GO」や、シェアリング型IoT農園「grow FIELD」、家庭用IoTプランター「grow HOME」などを手掛け、アグリカルチャーに触れる機会を創出。「grow SHARE」では、一般の方々の農的な活動を可視化し、環境への貢献度などのソーシャルグッドなインパクトをビジュアライズし、SDGsや、気候危機などへの対策として企業・行政と幅広く連携、農業一択のみに頼らない自分たち自身で創り出す『グリーン・フード・インフラ』の社会実装を進めている。J-Startup採択企業。

- ・設立: 2015年6月16日
- ・所在地: 東京都渋谷区神泉町11-7
- ・代表者: 代表取締役 芹澤 孝悦
- ・事業内容: ITサービス
- ・ホームページ: <https://plantio.co.jp/>



【参考】

1. 「次世代郊外まちづくり」とは

横浜市と東急が2012年4月に締結、2017年4月に更新した「『次世代郊外まちづくり』の推進に関する協定」に基づき、田園都市線沿線の住宅地を舞台に、大都市近郊の郊外住宅地が抱えているさまざまな課題を、地域住民・行政・大学・民間事業者の連携・協働によって解決していく、従来にはない住民参加型・課題解決型のプロジェクトです。

参考URL: <http://jisedaikogai.jp/> (次世代郊外まちづくりHP)

2. 「東急沿線まちづくり」に関する包括連携協定とは

川崎市と東急が2015年6月に締結、今後沿線人口の高齢化や建物の高経年化の進展が予想されており、これらを踏まえ、東急が持つノウハウや両者が持つ資源や強みなどを生かして、鉄道を主軸とする駅を中心としたまちづくりと沿線地域の特性に応じた利便性の充実、暮らしを支える持続可能なまちづくりに向けた取り組みを連携・協力して推進を目指しています。

参考URL: <https://www.tokyu.co.jp/file/150602-1.pdf> (「東急沿線まちづくり」に関する包括連携協定リリース)